平成29年６月25日執行

宮古市議会議員補欠選挙選挙公報

宮古市選挙管理委員会

復興から発展へ！

木村（きむら）誠（まこと）

四十四歳

私の目標

～夢を描ける街づくり～

一 人口減少に歯止めをかけ仙台と八戸の中間地点である宮古市を活性化させるよう『チーム宮古』で取り組んでいきます。

一 教育・子育てが楽しく行える街づくりを目指します。

一 若者が定着を望む魅力ある街づくりを目指します。

一 老後も安心して暮らせる街づくりを目指します。

一 積極的に交流の場を作り市民が主役の街づくりを目指します。

これまでの経験を生かして

市民の声を市政に届けます！

熊坂（くまさか）伸子（のぶこ）

（六十四歳）

- 復興促進
- 教育立市の実現
- 子育て環境の充実
- 多様性を認め合うまちづくり
- 産業立市の推進
- 読書環境の充実
- 健康福祉政策の充実
- 議会改革

略歴　昭和27年宮古市生まれ。宮古市立愛宕小学校・中学校卒、岩手県立宮古高校卒。弘前大学理学部・慶応義塾大学文学部卒、東北大学大学院経済学研究科修了。滝沢村（現滝沢市）助役、普代村教育委員会教育長、青森地方裁判所事務官、盛岡地方裁判所調停委員等を歴任。博士（経営学）。

市政の刷新と議会に活力を

”よそ者”の着眼点を生かします

宮古から安倍暴走政治にノーの審判を

プロフィール

●1967年1月31日北海道稚内市生れ　50歳　●稚内高校卒　京都産業大学法学部卒　●日本マクドナルド㈱勤務　●岩泉菌床シイタケ栽培経営　●2015年　共産党宮古地区委員会勤務員、准地区委員、ＪＣＰ宮古ボランティアセンター責任者

主な仕事

●大震災後から被災者支援活動の責任者として支援市などの先頭に。●台風10号被害の際も主に岩泉町に支援で奔走。●宮古下閉伊地域の戦争を語る会事務局

趣味

読書　音楽・映画鑑賞

1 若者向け住宅家賃の軽減、子育てしやすい街

2 防災・減災で安心の街へ閉伊川水門の検証見直し

3 地産地消・入札改善で経済の地域内循環を実現

現市政は、市民の反対の声が大きい市役所移転事業や閉伊川水門建設を進めてきました。また、復興事業が終盤を迎え人口減が加速することが予想されています。私は子育てを支え、若者が定住できる宮古市をめざし全力を尽くします。

さとき（ひでと）英人

50歳

日本共産党

住む人が幸せと感じる町　宮古がいちばん！

そんなまちづくりを目指します

西村（しょうじ）

その1

子育て支援と高齢者自立支援を合わせた複合型コミュニティー施設の整備（福祉）

その2

子育て対策（人口問題）

子供と高齢者の共生社会を目指します！

- ■幼児保育施設と介護施設の併設
- ■母子家庭に対する保護施策を拡充します
- ■子育て世代の経済的な保護を手厚く

その3

農林水産資源の開発（経済）

市内の各種産業振興への支援

宮古版（＝ならではの）地方創生戦略の基盤整備

- ■宮古にしかできない、宮古にふさわしい、宮古版の地方創生
- ■観光産業を中心としたまちづくり
- ■６次産業化への支援

（この選挙公報は、候補者から提出された掲載文をそのまま写真製版により印刷したものです。）（この選挙公報は、両面刷りです。）

平成29年６月25日執行

宮古市議会議員補欠選挙選挙公報

宮古市選挙管理委員会

畠山　茂（はたけやま　しげる）

― 市民と共に未来を創造する ―

安心・安全・公正な社会の実現!!労働者・生活者の視点で考動!!

私たちの住む宮古市は森・川・海の自然に恵まれた風光明媚な地域です。

しかし、近年は東日本大震災、昨年の台風１０号と大規模自然災害に見舞われ、改めて自然の猛威と防災の大切さを痛感させられました。いま復興道半ばで最終段階の大事な時期を迎えています。

また、日本社会は高度経済成長から、成熟社会に変わり少子高齢化、過疎化が早いスピードで進んでいます。この問題の解決には、子育て、年金、医療、介護、働き方、地域のあり方まで様々な制度の転換が必要に迫られています。

私は市民の皆さんと災害に強いまち、若者が宮古に定住できるまち、人にやさしいまちを実現できるよう政策活動を進めていきます。

《7つ基本政策》

- ○少子高齢化・定住促進対策の充実
- ○子育て支援の充実
- ○保健・医療・介護の充実
- ○男女共同参画社会の推進とワークライフバランス社会の実現
- ○若者が定住できる雇用の創出
- ○安心・安全なまちづくり
- ○産業・観光振興

《私のあゆみ》

昭和41年　6月　23日生まれ（51歳）。
　藤原小学校、河南中学校、宮古高校卒業
昭和60年　4月　宮古郵便局　入社
平成29年　3月　山田郵便局　課長で退職　32年間勤務
平成12年11月　連合岩手宮古地域協議会　議長（4期8年）
平成28年　4月　小山田二丁目町内会　理事

小西　ごうき（四十三歳）

三陸再起動！

①・水農林業の活性化を図り、様々な加工品の商品開発、販売ルートの拡大を推進し６次産業を確立
水農林の新規参入者や後継者を増やし、養殖等で安定供給を図り、また加工製品の商品化や商品開発を促進し、安心出来る営業や販路拡大を積極的に推進します。

②・現役寿命、健康寿命、平均寿命の延伸

③・子ども達の体験学習の充実
教育現場での体験学習には以外とお金がかかります。積極的に融資して下さる民間企業に直接頭を下げる事にまい進いたします。

④・三閉伊地区の産業、観光等の連携

⑤・商店、飲食店、産直の活性化を目指し、地産地消の町づくり

⑥・クリーンで開かれた議会の推進

小西剛毅（ごうき）
昭和４８年８月１８日生まれ（４３才）宮古市鍬ケ崎日立浜町出身
宮古市立鍬ケ崎小学校、宮古市立第二中学校、岩手県立宮古工業高等学校卒業
高校卒業後、東京にて流通、営業、販売、経営等修行
北海道にて各加工場で鮭の加工品製造の技術を修得
東京築地市場内の飲食店の運営補助、都内飲食店にて店長、エリアマネージャー等を経験。
震災後、復興に助力する為帰郷。南部鼻曲り鮭保存会会長兼、新巻職人・技術指導員。
様々なボランティアに参加しつつ、
「一般社団法人生命保険協会ライフ・コンサルタント認定証」受領、現在に至る。

棄権せずに投票しましょう！

投票日　**6月25日(日)**

行動・挑戦、さらなる市政改革

松本尚美（まつもとなおみ）（六十才）

●雇用の創出　－若者の定住促進－

経済が強くなければ若者は働き、定住できない。結婚も子育ても高齢者も支えられません。企業（製造業）誘致、誘致の為の工業用地の確保。Ｉターン、Ｕターン者の定住促進（稼ぐ場、住まい等の支援）、地場産業への支援強化、地元最優先の発注（地元でできるものは地元で）、観光振興（浄土ヶ浜園地周辺の魅力アップ、フェリーの活用）。

●少子化対策　－ストップ人口減少－

子供がいなければ、宮古市は消滅する。収入の少ない若者が結婚、子育てできる経済的支援（住宅、保育、教育の負担軽減）、病児保育、障がい児保育の充実、福祉作業所の支援強化。

●行財政改革　－行政コストの削減をはかり投資へ－

宮古市を元気にするためには、財源（資金）が必要です。ＰＦＩ事業等の積極的導入、民間で出来るものは民間に移管し行政コストを削減。公共施設の適正配置と廃校等を経済拠点としての活用。投資的経費は間もなく枯渇する、投資的経費確保の行財政運営を。太陽光発電所の積極誘致を。

●生活環境　－安心、安全なまちづくり－

東日本大震災で市民の生活、事業が壊滅的な被害を受け、更には台風10号により常襲的に生活を脅かされる現状をしっかり検証し、中長期的な解消事業の導入を。日常的な生活道路等の環境整備も維持管理等の役割分担で整備を。

●議会改革　－市民の為の議会に－

現状の議会、議員では市民の負託に応えれない。首長、行政をけん制、監視チェックする事は基本だが、オール宮古をいかに変革（イノベーション）、刷新（リノベーション）する施策の立案、財源確保、実行できる議会、議員への改革を。

経歴
昭和31年7月11日生（60才）石川県七尾市生まれ
昭和50年3月　石川県立中島高等学校卒
平成４年　㈳陸中宮古青年会議所　理事
平成８年　宮古商工会議所　青年部理事
平成10年2月　宮古市議会議員初当選
平成14年　県立宮古工業高等学校ＰＴＡ会長
平成26年4月　宮古市議会議員５期目当選
・宮古市議会議会運営委員会　委員長
・定住化促進対策特別委員会　委員長
・宮古地区広域行政組合議会　議長
・地縁法人　太田町内会　会長
・千徳小スポーツ少年団　顧問

（この選挙公報は、候補者から提出された掲載文をそのまま写真製版により印刷したものです。）（この選挙公報は、両面刷りです。）